

LIBRARY INFORMATION ライブラリー・インフォメーション

朝日新聞記事データベース  
が全面リニューアル!

4/1~

【聞蔵Ⅱ ビジュアル】

朝日新聞  
クロスサーチ

検索画面のデザインを一新、さらに使いやすくなりました

トップ画面には、「天声人語」「時事に強くなる」「スポーツ」など、ジャンル別の検索ボタンが配置され、クリックするだけで手軽に記事を読むことができます。また、朝日新聞に加え、雑誌「週刊朝日」「AERA」、英文ニュース、アサヒグラフ、現代用語事典『知恵蔵』など収録コンテンツをまたいで調べられる横断検索ができるようになりました。

その他にも機能面が強化され、より使いやすくなった「朝日新聞クロスサーチ」をぜひ活用ください!

朝日新聞クロスサーチ

1879(明治12)年の創刊号から今日までの朝日新聞紙面から約1600万件の記事・広告が検索・閲覧できる国内最大級の新聞記事データベース。年代により記事の切り抜き・紙面イメージも見ることができます。

※データベースのご利用には千代田区立図書館の貸出券が必要です。

5月の展示情報

※展示情報は変更する場合がございます。

2F パープルゾーン  
3階台  
1階特別展「鹿島茂コレクション2『稀書探訪』の旅」  
関連展示(〜7/17) NEW!

5月20日から始まる特別展とあわせて鹿島茂氏の著書を表示します。前期(4/25〜6/5)はヨーロッパのブックデザインや挿絵本、アール・デコに関する本を、後期(6/6〜7/17)は文学を中心に19世紀フランスの文化、社会についての本をご紹介します。

3F ブルーゾーン  
「MANGA」(〜6/17)

日本の漫画の歴史を辿りながら、日本と海外の作品、アニメやコスプレなど漫画から生まれた文化に関する本、あわせて当館所蔵の漫画もご紹介します。世界でも人気のある日本の「MANGA」について改めて探る展示です。

3F グリーンゾーン  
「迷〜正解のない時代に手がかりを探す〜」(〜5/13)

日常や社会に数多く存在する課題と決断。そこに潜む「迷」。私たちが向き合わなければならない「迷」を、どう乗り越えるか。解決の糸口を社会・人生・文学・決断の四つのキーワードで探ります。「迷」がある方もない方も、本展示で「迷」と向き合う方法を見つけていただければ幸いです。

展示 PICK UP

■ 2F パープルゾーン【江戸・東京】の本を集めたゾーン 7月15日(金)

千代田文人物語

〜町名由来板が導く文化の系譜〜



千代田区には多くの「文人」たちの物語があります。文語体と口語体の融合と転換、女性が活躍することへの挑戦、西洋の楽器や画材を用いた表現等、当時の彼らの情熱が伝わるような本をご紹介します。まちの記憶が刻まれた町名由来板をたよりに区内をお散歩しませんか?紫外線対策と水分補給をお忘れなく!

←お気に入りの「文人」をみつけてください!



『文人たちのまち 番町麴町』

- 新井 巖 著
- 言 視 舎
- 2019年

『津田梅子』

- 大庭みな子 著
- 朝日文庫
- 2019年



教えて! 図書館用語

図書館を利用する際に知っていると便利な図書館用語をご紹介します。

【レファレンス(reference)】

図書館利用者が学習・研究・調査などのために必要な資料や情報を求めた場合、図書館員が図書館の資料と機能を活用して資料の検索を援助し、資料を提供し、あるいは回答を与えるなど、利用者と資料とを結びつける業務で、現代のあらゆる館種の図書館において直接サービスを形成する重要な要素である。



←レファレンスは図書フロアのカウンターで受け付けています

参考:『最新 図書館用語大辞典』p.568  
図書館用語辞典編集委員会 編  
柏書房 2004年

写真上)『ラ・ヴィ・パリジェンヌ』雑誌、ジョルジュ・バルビエ他画、1863-1930年代、ラ・ヴィ・パリジェンヌ事務所 Photo ©Nao KASHIMA(NOEMA Inc. JAPAN)  
写真下)『パリジャン博物館』人間博物館書、ルイ・ユアール著、グランヴィル他画、1841年、ボージェ&オペール書店 Photo ©Nao KASHIMA(NOEMA Inc. JAPAN)



「稀書探訪」の世界を立体的にお楽しみください。  
2007年4月から2019年3月まで12年間144回にわたりANA機内誌「翼の王国」で連載された「稀書探訪」。仏文学者 鹿島茂氏による軽妙な語り口で綴られたテキストと共に魅惑的な写真で展開されました。本展では、19世紀を中心に口マン主義時代の挿絵本や地誌・風俗画、風刺画入り新聞・雑誌、モードのグラフィック資料など連載で紹介された全144点の稀少な書籍や資料を一室に展示します。

2022 5/20(金)〜7/17(日)

※休館日:6月20日(月)  
《前後期一部展示替えあり》  
◆前期:5月20日(金)〜6月19日(日)  
◆後期:6月21日(火)〜7月17日(日)  
◆開室時間:月〜木・土:10時〜19時、金:10時〜20時、日・祝:10時〜17時(入室は閉室の30分前まで)◆会場:日比谷図書文化館1階特別展示室(日比谷公園1-4)◆観覧料:一般300円、大学・高校生200円、千代田区民・中学生以下の方・障害者手帳などをお持ちの方とその付き添いの方1名は無料(各種証明書の提示が必要)◆主催:千代田区立日比谷図書文化館  
◆協力:平凡社、練馬区立美術館、群馬県立館林美術館、ノエマ

特別展

鹿島茂コレクション2  
『稀書探訪』の旅

《本展のみどころ》

- 1 19世紀フランスの古書蒐集に生涯をかけてきた鹿島茂氏のコレクションの精髓を一室に公開!
- 2 「パリ全史」や「パリの典型」をはじめ、数々の書籍や絵入り風刺新聞、モード誌などが展示され、19世紀パリの政治・社会や景観、風俗、ファッション、生活を多面的に見ることができます。
- 3 「ボヴァリー夫人」「海底二万マイル」「レ・ミゼラブル」「青い鳥」など、名作の数々に描かれた挿絵をお楽しみいただけます。
- 4 前回の「鹿島茂コレクション」展(2019)では展示されなかった児童書や絵本、漫画を紹介。色鮮やかな楽しいイラストが並びます。

calendar 開館時間:平日10時〜22時 ■ 土曜10時〜19時 ■ 日祝10時〜17時 ■ 休館日

2022年 5月							2022年 6月						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7				1	2	3	4
8	9	10	11	12	13	14	5	6	7	8	9	10	11
15	16	17	18	19	20	21	12	13	14	15	16	17	18
22	23	24	25	26	27	28	19	20	21	22	23	24	25
29	30	31					26	27	28	29	30		

掲載されている内容について変更や中止となる場合があります。最新情報は、ホームページ等をご確認ください。



access  
〔都営地下鉄〕  
●三田線「内幸町駅」A7出口 徒歩3分  
〔東京メトロ〕  
●丸ノ内線  
●日比谷線  
「霞ヶ関駅」B2出口徒歩3分  
●千代田線  
「霞ヶ関駅」C4出口徒歩3分  
JR「新橋駅」徒歩10分  
※当施設に駐車場・駐輪場はございません。公共交通機関をご利用下さい。

▶▶▶ 館内では常時マスクをご着用ください。入館の際は、手指消毒・検温のご協力をお願いします。

# 5・6月の講座

▶「日比谷カレッジ」とは、日比谷図書文化館が主催・共催で行うセミナーやイベントです。「江戸・東京」「本」「スキルアップ」「芸術」「センスアップ」の5つのカテゴリに基づき、さまざまな「学び」と「交流」の場を提供します。

5/1 (日) 他

## ＜日比谷オペラ塾＞上智大学教授・博多がおるが語る短期集中講座(全2回) 『ラ・ボエーム』(プッチーニ)と『ルイーゼ』(シャルパンティエ)にあらわれた都市パリとその習俗

講師：博多 かおる (上智大学教授)

芸術家とお針子を主人公とした二つのオペラを比較し、文学的・社会的な視野をそこに重ねることで、作品の深みをさらに感じたいと思います。まず、19世紀にお針子が文学や当時の職業図鑑等においていかに描かれていたか考察し、ミミとルイーゼという主人公の人物像や歌唱を新たな角度から分析します。さらに、二作品で描かれる庶民的なパリの風景や物売りの声を解説し、主人公たちを取り巻く群衆の声や町そのものがオペラの背景に謎めいた奥行きをもたらした経緯を探ります。

(主催：フェニーチェ劇場友の会、共催：日比谷図書文化館)

- 日時：前編：お針子はなぜオペラの主人公になったか ～19世紀の文学と音楽に描かれたその魅力と苦悩 5月1日(日)14:00～15:30(13:30開場)
- 後編：庶民のパリはオペラに何をつけ加えたか ～物売りの声やカフェ・居酒屋、群衆の声が表すものと首都パリの存在感 5月29日(日)14:00～15:30(13:30開場)
- 会場：地下1階 日比谷コンベンションホール(大ホール)
- 定員：各回60名 ■ 参加費：各回1500円

5/10 (火)

## 再発見された17世紀の画家 —“夜の画家” ジョルジュ・ド・ラ・トゥールを巡って

講師：高橋 明也(東京都美術館館長)

フランス東部・ロレーヌ公国に生まれたラ・トゥールは、フェルメールなどと同様、死後は人々の記憶から急速に消えていきました。その存在に再び光が当たるのは20世紀になってからです。2005年に東京で催された展覧会は、劇的な形でこの特異な画家の世界を再現しましたが、その過程と画家の魅力を当時の担当者が語ります。



- 日時：5月10日(火)19:00～20:30(18:30開場) 《願想するマグダラのマリア》1642-44年頃 ルーヴル美術館蔵
- 会場：地下1階 日比谷コンベンションホール(大ホール) ■ 定員：100名 ■ 参加費：1000円

5/14 (土)

## 千代田区民講座 蛍の再生 ～細菌とウイルスへの対処方法～

講師：阿部 宣男(理学博士)

日本各地のホタルの飼育や再生は、その生態に害を及ぼす細菌やウイルスを如何に減らすかに掛かっています。多くの実験や分析を行い、生態系への影響がなく安心して蛍の飼育域の再生を行うことができるナノ純銀の活用が、最も効果的であるとわかりました。自然環境の保護の難しさと、新しい技術についてお話しいたします。



- (主催：NPO法人 神田雑学大学、共催：日比谷図書文化館)
- 日時：5月14日(土)14:00～15:30(13:30開場)
- 会場：地下1階 日比谷コンベンションホール(大ホール)
- 定員：60名 ■ 参加費：無料

＜参加申込＞電話(03-3502-3340)またはホームページにて、講座名、お名前(よみがな)、お電話番号をご連絡ください。各講座ともに定員になり次第、締め切らせて頂きます。キャンセルの場合はご連絡ください。参加費は当日支払いです。千代田区民料金のある講座は、当日、図書貸出券や健康保険証など住所が確認できるものをお持ちください。

5/25 (水)

## 文化・芸術でひもとく世界の“いま”③ 現代アメリカの社会と音楽 —ブラック・ライヴズ・マター運動とBTSの成功

講師：大和田 俊之(慶應義塾大学教授)

ブラック・ライヴズ・マター運動とアジア系カルチャーの台頭。ヒップホップ/R&Bがアメリカ最大の音楽ジャンルとなったことと社会運動はどう関係し、アメリカ市場でのBTSの成功はどう達成されたのか——一見無関係に思われるアメリカ社会の二つの現象を、音楽文化を通して解説します。



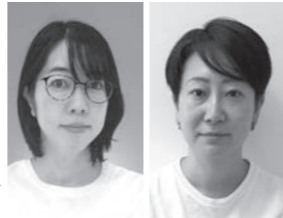
- 日時：5月25日(水)19:00～20:30(18:30開場)
- 会場：地下1階 日比谷コンベンションホール(大ホール)
- 定員：100名 ■ 参加費：1000円
- ※3月11日(金)の講座が延期されたものです。

5/28 (土)

## ファッション×SDGs ～大量廃棄社会のその先へ～

講師：仲村 和代(朝日新聞デジタル機動報道部次長) 藤田 さつき(朝日新聞オピニオン編集部次長)

ファストファッションなど低価格で流行の服が購入できるようになった一方、日本で1年間に廃棄される新品の服は10億枚にも上ります。アパレル業界の実態に迫った『大量廃棄社会』の著者である二人を講師に迎え、社会、企業、そして私たち個人が今できることは何かを探っていきます。



- 日時：5月28日(土)14:00～15:30(13:30開場)
- 会場：地下1階 日比谷コンベンションホール(大ホール)
- 定員：100名 ■ 参加費：1000円

6/9 (木) 他

## ＜日比谷オペラ塾＞ 昭和音楽大学客員教授・小畑恒夫が語る短期集中講座(全2回) ヴェルディのヒロインたち

講師：小畑 恒夫(昭和音楽大学客員教授)

ヴェルディが創造したヒロインのほとんどは強い意志をもつ女性たちです。男たちにただ隷属するのではなく、自らの意志を通そうとする勇敢な女たちをヴェルディは次々に生み出しましたが、19世紀においてこれは特異なことではないでしょうか？今回はヴェルディのオペラにおけるソプラノの重要性と豊かな表現力に注目し19世紀の歌唱技法的な変化や、作曲家の精神的円熟との関連などもからめながら、彼のオペラの魅力を存分に語りたくと思います。



- (主催：フェニーチェ劇場友の会、共催：日比谷図書文化館)
- 日時：前編：＜初期オペラ＞行動する女たち <『ナブッコ』『マクベス』などのヒロインから> 6月9日(木)14:00～15:30(13:30開場)
- 後編：＜中～後期オペラ＞耐える女たち <『アイーダ』『オテッロ』などのヒロインから> 6月23日(木)14:00～15:30(13:30開場)
- 会場：地下1階 日比谷コンベンションホール(大ホール)
- 定員：各回60名 ■ 参加費：各回1500円

6/16 (木)

## 古書で紐解く近現代史セミナー 第40回 女性旅行作家 イザベラ・バードはどのように作られたか —1878(明治11)年の初来日前後まで

講師：大野 純子(大正大学文学部日本文学専任講師)

イザベラ・バードは1831年に生まれ、大英帝国の絶頂期に大人になった真正のヴィクトリアンです。彼女がこの時代の何を享受できたのか、また個人的な生育環境がキャリアにどう影響したのかを見ていきます。レディ・トラベラーとしては遅咲きだったバードがなぜ日本を訪問先に選んだのか、その準備をどのように行ったかについてもご紹介します。



- 日時：6月16日(木)14:00～15:30(13:30開場)
- 会場：地下1階 日比谷コンベンションホール(大ホール)
- 定員：100名 ■ 参加費：1000円(千代田区民・学生500円)
- ※学生の方は、当日、受付で学生証をご提示ください。

6/17 (金)

## 千代田区内ミュージアム連携企画 江戸歴史講座 第74回 江戸時代の捕者とお裁きの世界

講師：日比 佳代子(明治大学博物館学芸員(刑事部門担当))

皆さんは江戸時代の裁判というと、どういったイメージを思い浮かべるでしょうか。過酷な取り調べ?それとも人情味あふれる奉行のお裁き?そのイメージは小説やドラマで作り上げられたものかもしれません。江戸時代の記録から明らかになった犯人捕縛の様相や裁判の仕組みをお話します。



「牢内深秘録」新入りのしゃくり (明治大学博物館所蔵)

- 日時：6月17日(金)19:00～20:30(18:30開場)
- 会場：地下1階 日比谷コンベンションホール(大ホール)
- 定員：100名 ■ 参加費：1000円(千代田区民 500円)

6/19 (日)

## 翻訳者が語る 世界文学への旅1 英語で書かれた文学 読む楽しみ・訳す楽しみ

講師：柴田 元幸(東京大学名誉教授、翻訳家、文芸誌「MONKEY」責任編集)

英語で書かれた文学は、もはや主流でも支配的でもなく、ほかの言語で書かれた文学と肩を並べた一分野にすぎませんが、英語圏は地理的にも比較的広く、文化的にも多様で、読んで面白い文学がいまだたくさん生まれていることもまた確かです。それらを読む面白さ、訳す面白さについて、作品の朗読も交えてお話します。



©鳥袋里美

- 日時：6月19日(日)14:00～15:30(13:30開場)
- 会場：地下1階 日比谷コンベンションホール(大ホール)
- 定員：100名 ■ 参加費：1000円

こどもの読書週間 in 千代田区立図書館

# ヨムキク ちよだ2022



こどもの読書週間(4/23～5/12)期間中、千代田区立図書館の各館では本に親しんでいただくイベントを多数開催!子どもも大人も家族みんなでお楽しみください。詳しくは図書館ホームページをご覧ください。

## としょかんをめぐろう! スタンプラリー

## 児童書展示 「本をひらくせいかいがおどる」

## おはなしに 出会える パン屋さん

特別研究室 ● 企画展示

# 西洋人が出会った日本 ～幕末から明治～

入場無料

幕末から明治にかけて日本にやって来た西洋人が目にした日本は、彼らの生活様式とは全く異なる、新鮮で珍しい光景ばかりでした。今回の企画展示では特に庶民の生活を記録した蔵書を中心に所収の図版をパネル展示し、往来(街道)、娯楽、西洋人が描いた富士山、西洋と日本の仲介役であった通詞などから西洋人が出会った日本の姿を紹介します。



永代橋と江戸市中の眺め (『Die Expedition in die Seen von China, Japan und Ochotsk 3』/Wilhelm Heine / 1859年)

《主な展示図書(予定)》

- 『The capital of the Tycoon 1・2』(Rutherford Alcock/1863年)
- 『Die Preussische Expedition nach Ostasien』(Gustav Spiess/1864年)
- 『A narrative of a journey to the capitals of Japan and China』(Robert Fortune/1863年)
- 『日本その日その日 上・下』(E.S.モース/1929年) ほか

- 期間：2022年 開催中～6月30日(木) ※休館日：5月16日(月)、6月20日(月)
- 開室時間：平日10:00～20:00 土曜10:00～18:00 日曜・祝日10:00～16:00
- 会場：4階特別研究室

5/6 (金)

## こどもの読書週間 in 千代田区立図書館(ヨムキクちよだ2022) 現在の子どもたちの文化と本事情

講師：赤木 かん子(児童文学評論家)

2008年からスマホが爆発的に売れたことで文化には大きな亀裂が入りました。そのときに生まれた人たちは、今現在中学2年生か3年生……、ということはその前後は文化が変わる、読む本や聞く音楽は変わるでしょう。そうして、再び新しい文化に沿った文学が立ち上がってくるのには、たいてい5年ほどかかります。つまり2013年です。そのときに生まれた人たちはいま小学校3年生前後……。つまりはそのあたりでまた大きく文化が変わっているはず。というような、現在の子どもたちの文化と本事情について、お話しいたします。



- 日時：5月6日(金)19:00～20:30(18:30開場)
- 会場：地下1階 日比谷コンベンションホール(大ホール)
- 定員：100名 ■ 参加費：500円(千代田区民 無料)

From Chiyoda Public Library

## スタンプを2つ以上集めた方には記念グッズをプレゼント!

- ▶ 期間：開催中～5月12日(木)
- ▶ スタンプ場所：ヨムキクちよだの展示やイベント参加、昌平まちかど図書館、神田まちかど図書館



## “おどろう!”をテーマにした 子どもの本約35冊を展示します。

- ▶ 期間：開催中～5月12日(木)
- ▶ 場所：千代田図書館9階=第2展示ウオール

昨年の様子



## 絵本の世界をイメージした オリジナルパンを販売します。

- ▶ 期間：開催中～28日(木)、5月9日(月)～12日(木) ※土日祝休み
- ▶ 場所：千代田区役所1階=さくらベーカリー

昨年の様子

